



長和町・上田市総合立
国保 依田窪病院

国保依田窪病院 広報誌

第5号

依田窪病院だより

白樺

病院の理念

- 地域に密着した心あたたかな医療
- 地域の基幹病院として高度医療の実践

国保依田窪病院へのお問い合わせ

〒386-0603 長野県小県郡長和町古町 2857
TEL: 0268-68-2036 FAX: 0268-68-2683
URL: <http://www.yodakubo-hp.jp>
E-mail: info@yodakubo-hp.jp
平成20年12月27日発行
発行/国保依田窪病院 印刷/田口印刷株式会社

主な内容

診療科の現状 内科、小児科	2
第22回依田窪病院祭	3
依田窪病院シンボルツリーの紹介	4
南第1駐車場拡張工事完成	4

当院でも医師不足は深刻です！！

住民皆様のご理解とご協力を

◇内科

現在、内科は4名の常勤医師と1名の非常勤医師、そして木曜日に限り、諏訪中央病院からの派遣医師1名の診療体制により診療を行っています。昨年までは、常勤医師が6名（内1名は和田診療所勤務）いましたが、2名の内科医師が退職した後、その後任が確保できず、現在に至っています。全国的な医師不足の中、当院も決して例外ではなく、非常事態と言っても過言ではない状況であります。医師が減ったことにより慢性的な待ち時間の増加を生み、住民の方々から苦情をいただく結果となっています。さらに、マイナス的な要素は外来患者数の減少にもつながり、経営的な面からも悪循環を招いています。



内科待合い

1日の平均患者数（平成20年度は11月現在）

年 度	18年度	19年度	20年度
内科の外来患者数の推移	116.8人	106.6人	88.1人

当院ではあらゆる手段を講じて、医師確保に奔走していますが、即効的に解決できる問題ではありません。人脈を頼りに、またホームページをフルに活用した情報提供を図るとともに、

構成市町である長和町・上田市の強力なバックアップもいただきながら、医師確保に向けた取り組みを行っています。このように大変厳しい状況下では、地域住民皆様のご理解とご協力、またご支援がなければ乗り切ることができません。どうぞ、このような事情をご賢察いただき、より一層のお力添えを賜りますようお願い致します。

※上田市が医師確保の緊急対策として、今12月議会で条例化した「**医師確保修学資金等貸与条例**」の概要は次のとおりです。

◇修学資金

- ・対象者：将来、医師として上田市指定の医療機関で従事しようとする医学部の大学生
- ・貸与額：月額20万円（通算して6年が限度）
- ・返還の免除：指定医療機関に従事した期間が、貸与期間と同一の期間に達したとき

*上田市の指定する医療機関

①依田窪病院 ②上田市産院 ③武石診療所 ④長野病院

（その他、市長が特に必要と認めた医療機関）

※この修学資金のほかに、**研修資金**（大学院生と臨床研修、後期研修等の研修医に関わる資金貸与）、**研究資金**（県外から転入した医師に対する資金貸与）の2つの制度があります。詳しい内容は、依田窪病院または上田市健康推進課（28-7124）へお問い合わせください。

◇小児科



小児科待合い

このままでは小児科は閉鎖の危機！！

平成17年まで常勤医師がいた小児科は、現在非常勤医師により週3回（火、木、土）の診療を行っています。外来の患者数は本年4月からの統計で、一日平均4～5名程と17年度の平均20人を大きく下回っています。

このままの状況が続きますと経営的な面でも大きな支障を来たしてしまいます。医師不足も大きな問題であると同時に、収入減による経営の圧迫は、病院存続の危機ともなります。どうか小さいお子さんをお持ちのお母さん方には、できる限り当院の小児科を受診していただきますようお願いと要望を致します。なお、現在、小児科常勤医師の確保に向けて全力で取り組んでいます。

第22回依田窪病院祭が開催されました

病院祭メインテーマ：地域と地域をつなぐ病院になるために

9月7日(日)に第22回依田窪病院祭が開催されました。前夜からの雨で、天候が心配されましたが、当日は穏やかな秋晴れに恵まれ、盛大に開催することができました。大勢のご参加ありがとうございました。

病院祭のオープニングは、依田窪南部中学校吹奏楽部の力強い演奏で幕を開けました。吹奏楽部の面々は、日頃鍛え上げられた練習の成果を存分に発揮されるとともに、息の合った素晴らしい演奏を披露してくださいました。この演奏が、病院祭のメインテーマである地域と地域をつなぐ病院になるための「橋渡し役」になってくれたような思いを強く印象付けたひとコマでした。



病院祭オープニング 依田窪南部中学校吹奏楽部の演奏

三澤院長と住民の方々との意見交換会の様子



今回の病院祭では初めての試みとして「三澤院長と地域住民の方々との意見交換会」を行いました。これは、当院を今よりもっと身近に感じていただくために、直接院長と住民の方々が膝を交えて意見を交わすことによって、患者さんや住民の方々の生の声をお聞きすること、また病院の抱えている問題点や要望を直にお伝えしたいとの思いから開催したものです。会場は、和やかな雰囲気に入れられ、時折、笑顔や笑い声も聞こえる中での開催となりました。住民の方々からの要望として「待ち時間をもっと短くできないか」「町の病院なので夜間、休日を問わず時間外であってもいつでも診て欲しい」などのご意見をいただきました。三澤院長からは「全国的に

深刻な医師不足の中、特に当院のような地方の病院では存続すらできないところも出てきています。そんな現状の中でも、当院は医師はじめ職員の努力で厳しいながらも病院を何とか維持しています。医師確保に向けて全力投球で頑張っておりますので、ご意見やご要望は分かりますが状況をご理解いただき、病院を支えてください」とのお願いを致しました。そのほか町内外の患者さんの多くから「この病院の医療技術は素晴らしい」「あんなに痛かった腰、膝の具合がウツのようによくなりました」などの感謝や御礼のお言葉をたくさんいただきました。住民の方々と院長が直接対話できたことで、お互いの心が通い合い、有意義な意見交換会となったことと思います。

手術室の見学

病院内の施設見学では、特に手術室に人気が集まりました。普段は関係者以外立ち入ることのできない手術室内の麻酔機器、空調設備などをご覧いただきました。見学者の皆さんからは、電気メスや特に細心の注意を払っている環境衛生面での「高機能空調設備」の性能、機能などについてのご質問が多く、想像以上の画期的な能力に驚きの声も聞かれました。初めての一般公開でしたが、見学者の皆さんからは大変ご好評をいただきました。「来年の病院祭にはこんなことを行って欲しい」「こんな企画があればなあ」などのご意見、ご要望がありましたら、お気軽にお寄せください。できることであれば次回の病院祭で可能な限り実行していきたいと思っております。



依田窪病院シンボルツリー 大銀杏『還樹』

南第1駐車場の一角にさっそうと聳え立つ大銀杏があります。駐車場の拡張工事に伴い“伐採するか”“切らずに残すか”が論議となり、全職員を対象とした投票の結果「当院のシンボルツリー」として残すべきとの結論となりました。これによってこの大銀杏の愛称を募集し、多数の応募の中から決定された“愛称”と命名の由来等についてご紹介します。

◇命名の由来

銀杏とは本来、実を意味します。銀杏は別名「公孫樹」とも書きます。これは公（祖父）が種を播いても実が生るのは孫の時代になることに例え、長寿の樹（き）とされています。この銀杏は樹齢が約60年と言われ、人に例えるとちょうど還暦です。還暦とは干支（えと）が60年で一回りして帰ることを意味し、数え年で61歳を言います。

「地域住民の方々がこの大銀杏にあやかり、元気になって職場や自宅へ帰ってほしい」との願いと想いがこめられています。

命名者：検査科 金井 昭憲

◇樹種：銀杏（イチョウ）

①樹高：20メートル ②幹周り：2メートル10センチ ③樹齢：60年 ④雄の木（実がなりません）



南第1駐車場の拡張工事が竣工



患者さんからお聞きするご意見のひとつに、“なるべく病院に近い場所に駐車場を”とのご要望があります。その解消対策の一環として、旧院内保育所の跡地を整地して進めておりました駐車場の拡張工事が、このほど完成致しました。これにより以前の台数より30台分多い駐車スペースが確保できました。まだまだ十分とは言えませんが、どうぞご利用されますようお願い致します。